

11月30日(火) 南魚沼市民会館で南魚沼市観光地域づくり(DMO)キックオフ勉強会を開催しました

この勉強会は、コロナで疲弊した現状を打開し、今後の南魚沼市の観光地域づくりを、多様な関係者と協同しながら地域一体となって発進していくための最初の取り組みとして南魚沼市観光協会との共催で開催しました。

名鉄観光サービス株式会社 特別顧問の小高直弘さんによる講演「改めて観光のノウハウを知る」では、新型コロナウイルスの影響で横並びとなった全国の観光地から飛び出すには、まさに今動き出すことが必須であるとの意見をいただきました。

また小高さんをファシリテーター(進行役)に、パネリストに観光経済新聞社の長木利通さん、金誠館の目黒哲也さん、ほてる木の芽坂の若井勝也さんをお迎えし、オブザーバー(立会人)を林市長にパネルディスカッションを開催しました。「南魚沼における観光地域づくりとは」を題材に白熱した意見交換が行われ、各パネリストと市長の地域観光に対する熱い想いが語られました。

市内事業者や市議会議員を中心とした参加者は、真剣なまなざしで耳を傾けていました。



国際大学留学生 お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

インドネシア共和国 アリアント クリスチャン ハルトノさん

シリーズ
第105回

私の国はこんなところ

インドネシアは約 18,000 もの島々からなる世界有数の島嶼国家で、社会的・文化的に非常に多様性に富んでいます。例えば、国内で使用される言語は 700 以上あり、そのほとんどは公用語のインドネシア語とはまったく異なる言語です。インドネシアでは多くの人が多言語を話します。まず地域の言語を覚え、その後教育を通して公用語のインドネシア語を学び、話すようになります。もう一つの例は料理です。スープ(インドネシア語で「ソト」)の種類は 100 以上あり、どれも具材や味、見た目が違います。



南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼の四季をととても楽しんでます。春には山菜を採りに行きました。短期間しか味わうことができない特別な楽しみです。山菜を家で料理をして食べましたが新鮮でおいしかったです。南魚沼には都会にはない楽しみがたくさんあります。

編集後記

あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響で変化した生活様式はさまざまありましたが、飲食店からのテイクアウトも、広く活用されるようになりました。この年末年始も、テイクアウトでお食事を楽しんでいるご家庭も多いのではないのでしょうか。2月末までの本気丼キャンペーンでも、テイクアウト対応する店舗も多くあります。感染対策に十分留意しながら、新年を楽しみたいですね。(M.K)

今月の表紙

11月28日(日)、南魚沼市民会館を会場に、令和2年度成人式が開催されました。華やかな振袖やスーツなどに身を包んだ多くの新成人が集い、仲間たちとの再会を喜ぶ笑顔があふれていました。

市民の動き 令和3年11月末日現在 () は対前月比

○人口 54,638人(95人) / 男 26,742人(43) 女 27,896人(52) ○世帯数 20,104戸(119)